

「混沌こそ本質」そして「Win-Win」の難しさ

(特非) シビルNPO 連携プラットフォーム 常務理事

(特非) シビルサポートネットワーク代表理事 **辻田 満**



今年の4月で古希を迎えました。若いころは古希と聞くとかなりの長老のイメージでしたが自分がこうして古希を迎えてもNPOの世界では長老などと扱っては頂けないようで毎日プレイヤーとして動き回っている次第です。特に建設系NPOは他の分野のNPOに比べはるかに発展途上の分野であり、私も今年でNPO活動に従事して14年を経過しますが思うように上手くいかないことばかりで家族もよく続くものだと思われているほどです。

振り返って見ますと上手くいかないことばかりなのはNPO活動に始まったことではなくサラリーマン時代にも同じことでした。サラリーマン時代は多少不条理なことでも会社のためだとか上司の命令とかで受け入れざるを得ないことが多くありましたが、とくにNPOの世界では会社のためとか上司の命令など全く関係のないフラットな世界であり、かつ個人の価値化や世界観が優先される世界なので余計に難しいと感じています。

「混沌こそ本質」という言葉に出会ったのは私が40代の頃でした。「混沌こそ本質」とは、10人十色、10人いれば10人の考え方、価値観があり、物事全て混沌、すなわちごたごたしてまとまらない事の方が本来の姿であるということです。上手くいかないことの方が当たり前でいちいち上手くいかないからと言って腐っては何の進歩も成長もないということです。私がこの「混沌こそ本質」という言葉に出会ってからは全てにとっても気持ちが楽にやれるようになったと感じています。「混沌こそ本質」という言葉に出会ってからは、サラリーマン時代はもちろんNPO活動をしている現在に至るまでこの言葉に救われて、上手くいかないときでも平常心でいられるのです。

さて、「Win-Win」なる言葉は米国でベストセラーとなり日本でも販売されたコヴィー博士の「7つの習慣」に書かれている言葉です。効果的な人間関係を構築する土台になる習慣は「Win-Win」を考えることです。「Win-Win」を考えることは相互得を求める態度であり、勝つために相手を負かせる必要はないと考えることであり、全ての当事者を十分に満足させるだけの結果を確保できる方法はあるはずだという信念なのです。

その一方、「Win-Lose」とは自分が勝って相手が負けることを意味します。人生を大きなコンテスト、試合、競争とみなし、勝か負けるかと思込んでいる人は多く存在しています。しかし、このように考える人はNPO組織には不向きだと私は思います。現役時代は企業で好業績を上げることがあってもそのままのやり方ではNPO活動では通じません。人生の中のほとんどの場面(家族、会社、チーム、サークル)は、高い次元の協力を必要とするものだからです。「Win-Win」を考える人は、自分一人の能力に制限されることなく、他の人と協力しながら継続的に大きな成果が出せる可能性があります。

しかし、「Win-Win」の理屈は十分に理解できても実践の難しさを痛感しています。そして日々、NPO活動では混沌の世界に埋没しているのが現実です。